

区分	指導	題名	キュウリうどんこ病の増加は炭酸水素塩剤散布により抑制できる			
〔要約〕 キュウリうどんこ病の増加期に炭酸水素カリウム水溶剤、炭酸水素ナトリウム水溶剤、炭酸水素ナトリウム銅水和剤を散布すると、その後のうどんこ病の発病増加を抑制できる。						
キーワード	きゅうり	うどんこ病	炭酸水素塩剤	抑制	病害虫部 病理昆虫研究室	

1. 背景とねらい

昨今、うどんこ病耐病性品種の導入により本病による被害を受ける圃場は減りつつあるが、依然、本病は露地きゅうり栽培において重要な病害である。本県では例年7月中旬に初発がみられ、7月下旬から8月中旬にかけて急増する。耐病性品種を用いない場合には予防主体に防除を実施しているが、一旦発病が増加し始めるとこれを阻止できる薬剤は耐性菌を生じやすいDMI剤において他にない。ここでは、本病増加期における炭酸水素塩剤の散布が、病勢進展阻止に優れることが明らかとなったので、その成果を取りまとめる。

2. 成果の内容

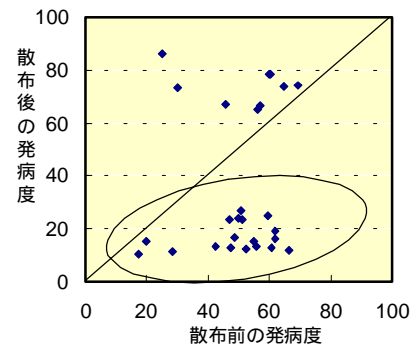
(1) 薬剤散布時期 うどんこ病の発病増加期で、発病葉率が概ね50%程度まで

(2) 使用する薬剤および使用方法

一般名	商品名	使用倍率	散布量	留意点
炭酸水素カリウム水溶剤	カリグリーン	800倍	500L / 10a	アーチ両面から、葉の表裏に薬剤を丁寧に散布する
炭酸水素ナトリウム水溶剤	ハーモメイト水溶剤	800倍		
炭酸水素ナトリウム銅水和剤	ジーファイン水和剤	1,000倍		

(3) 散布による効果 本剤散布により、発病増加を抑制できる(散布時点での発病程度以下に抑制)。

: 右図において、散布前後の発病程度のプロットが丸で囲んだ付近にあれば発病増加が抑制されたと判断する(右図で囲み内は炭酸水素塩処理区、囲み外は無散布の場合)。



3. 成果活用上の留意事項

- (1) キュウリうどんこ病の増加は通常、県南部7月第5半旬以降、県央・北部では8月第3半旬であるが、本成果の活用においてはこの時期に限らず、概ね半分の葉に発病が増加した場合に上記薬剤を散布する。
- (2) 炭酸水素塩剤はうどんこ病の増加抑制のために使用する補完防除剤とし、定期散布剤としない。
- (3) 炭酸水素塩剤を補完防除剤として用意する場合、うどんこ病に対する専用剤を体系に組み入れる必要はない。
- (4) 炭酸水素塩剤の連用による薬剤耐性うどんこ病菌出現の可能性は低いとされている。

4. 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯または対象者等 県下全域
- (2) 期待する活用効果 うどんこ病の蔓延による草勢低下を回避できる。

5. 当該事項にかかる試験研究課題

(730) きゅうりにおける総合的病害防除技術の確立(平成13~15年、国・県)

6. 参考資料・文献

- (1) 平成12~14年度病理昆虫研究室成績書(未定稿)

7. 試験成績の概要

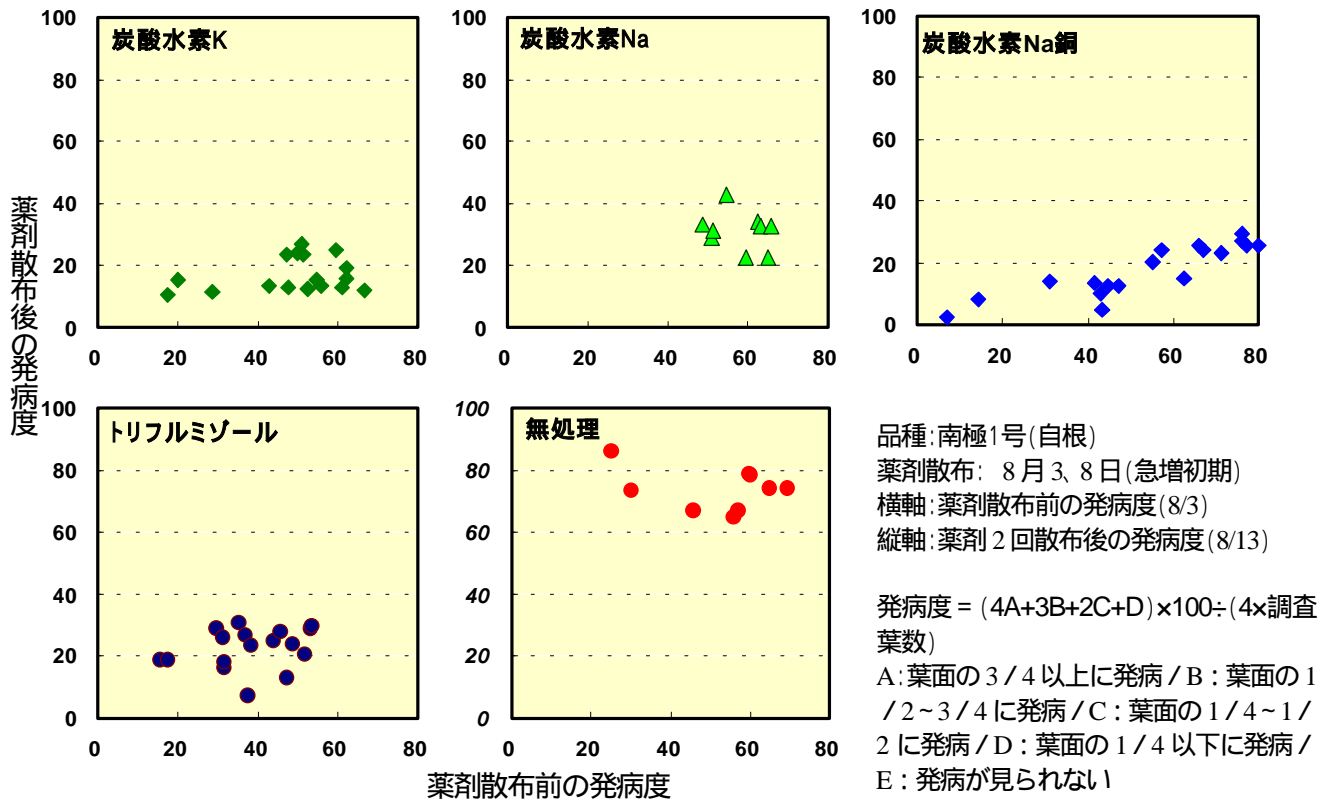


図1 キュウリうどんこ病急増初期における病勢進展阻止効果 (2001年)

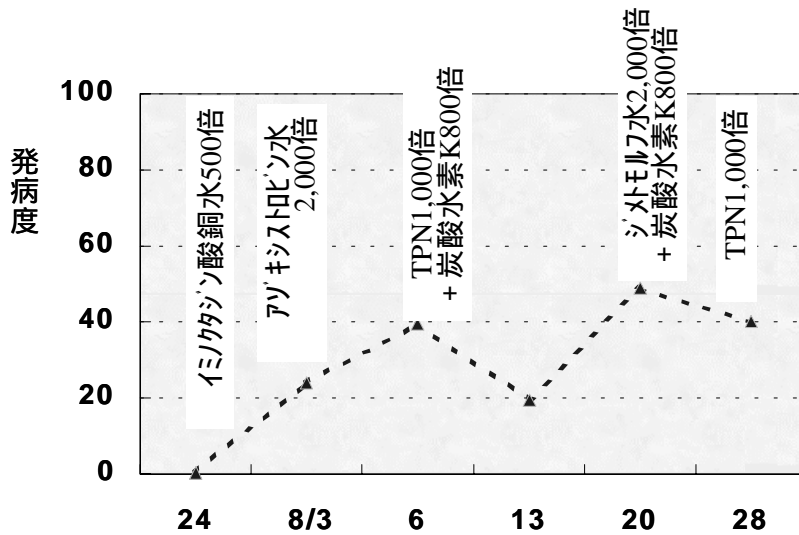


図2 体系防除において炭酸水素カリウム水溶剤を加用した場合の病勢進展阻止効果 (2001年)

品種:南極1号(自根)